

# つくしだより



東京都精神保健福祉家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション301

TEL/FAX:03-3304-1108

<http://www.tsukushi.sakura.ne.jp/>

発行者 眞壁 博美

2019.10.15 第351号

令和元年 10月号

「精神障がい者のための

ソーシャルファーム」

恩賜財団済生会理事長 炭谷 茂

厚生省(当時)で精神保健福祉行政の仕事に従事したことがある。

そのころ私は、「日本の精神保健福祉行政は、ヨーロッパに比べ30年遅れている」と考えていた。

40年ほど前、イギリスで福祉の勉強をする機会があった。

イギリスでも精神障がい者に対する人権侵害事件は、発生したけれども、発生する都度、精神障がい者の人権を守るため、法律改正が繰り返された。この結果、日本とイギリスの精神保健福祉行政は、30年ほどの差が生じてしまった。

しかし、一昨年7月、イタリア・トリエステを訪問してこの考えを修正しなければと思った。「30年ではなく40年以上の差だ」と。

トリエステにサン・ジョヴァンニ精神科病院という大きな病院があった。建物は、立派であったが、内部では患者に対する人権侵害が頻発していた。

1971年に院長として赴任したバザリアは、入院患者の状況を憂

い、患者を地域で就労させ、外来治療に移し、すべての入院患者を退院させ、廃院に追い込んだ。

用意された就労する場がソーシャルファームの始まりである。精神障がい者は、一般の人と一緒に同様な給料で働き、人生に生きがいを持って暮らせるようになった。

トリエステの成功は、1978年に法律が制定され(通称バザリア法)、イタリア全土で同様なことが実現している。長期の精神科入院施設はすべて廃止され、精神障がい者が就労できるソーシャルファームが整備されている。

☆

☆

ソーシャルファームは、今ではヨーロッパ各国で設立されている。精神障がい者だけでなく、障がい者全般、元受刑者、DV被害者など労働市場では仕事ができることが困難な人を対象にしている。

ソーシャルファームの特色は、企業と同様なビジネス手法で経営を行い、多様な当事者や地域住民が一緒に勤務する。給料、労働時間等の労働条件は、一般の労働者と同様である。

しかし、精神障がい者が就労する場合、仕事の手法、労働時間、服薬など格別な配慮が必要であるので、ソーシャルファームは、対策を講じる。リハビリや職業訓練の機能も付加する。

ソーシャルファームは、企業と同様の製品やサービスを生産する。しかし、ハンデキャップを有する人が働くので、独立採算を基本にするが、一定の公的支援が必要とされる。先行国の例を見ても、相応の公的援助を講じている。

この度東京都ではソーシャルファームを支援する条例の制定が、急ピッチで進められている。制度が新設されれば、東京でのソーシャルファームは、飛躍的に整備されることは疑う余地はない。

これによって精神障がい者は、「ひとりの人間として尊厳性を持って生きがいの感じる人生を送る」ことが可能になる。ソーシャルファームの核的な狙いは、ここにある。

日本の精神保健福祉行政は、ヨーロッパと比べ40年以上遅れたと思うが、東京都の条例の制定を原動力にして一日も早くヨーロッパ諸国を追い抜くことを祈っている。



## 家族会訪問

### 「FHMの会」

(福生・羽村・瑞穂三地区精神障がい者家族会)

都連理事 安藤 万寿代

9月14日(土)瑞穂町ふれあいセンターで例会があり、副会長の本田さんと一緒に訪問しました。当日は、羽村市にお住まいの都議会議員清水やす子様もご出席されました。本日のタイトルは「70～80代の親と40～50代の当事者が安心して地域生活を送っていくには・・・」で、安藤から社会資源を利用して自立した息子の生活をお話ししました。先ず、家族会も大切な社会資源で、どのような支援も受けられ続けることは、親も当事者も安心して地域生活を過ごしていくのに必要です。

本田さんからは、現在の東京つくし会の様子をお話ししました。都庁福祉保健局へ「精神障がい者にも福祉手当を」について出向いたことや、今後の予定など話されました。

この会は、1981年に創立されF(福生市)H(羽村市)M(瑞穂町)と3地区名から取られ、現在は浅見会長を中心に活動されています。内容は、家族による相談実施・施設見学会・バス旅行・新年会・一般の方も参加の講演会を行い、本日も御夫妻で参加され大変和やかで素晴らしい会でした。

以前、「ご活躍いただいた元東京つくし会理

事の増田さんのお出迎えて、観光案内もして頂きました。行き先は、「東京都立野山北・六道山公園」です。静かな街並みの中に豊かな緑が姿を現す公園は狭山丘陵の西端にあり、国の天然保護鳥「大鷲」が生息しており、レトロのレンガ造りの展望台から新宿や奥多摩・天気が良いと富士山も望むことができます。

緑豊かな大自然の恵みの中で、家族会の益々のご活躍を期待致します。ありがとうございました。



## 家族会訪問

### 「国分寺あゆみ会」

都連副会長

本田 道子

国分寺市は中央線沿いのみどりの多い地域です。渋谷から訪問する私はいつもそのみどりと家々に咲く季節の花たちに励まされて歩いています。

9月20日、今回は調布からバスです。

会場は「国分寺障害者センター」いつものようになんの疑いもなくそのまま会場の2階に向かいました。が、しかし、でず。本来は1階の入口でスリッパに履き替え

る必要があったのでした。  
1階は「地域活動支援センター・つばさ」と「喫茶 いずみ」があり2階には会議室の他に「自立訓練 はばたき」「生活介護 太陽」などが入っている複合施設となっています。清潔の維持の必要があったのです。

会議室ではすでに資料が配られ机の上にお菓子やお茶も用意されていました。毎回思うことですが、家族会にとつてこのセットは欠かせない、と思っています。安心して話せる場、であるための「安心セット」です。

会長の米陀さんから国分寺市への働きかけなどの報告。それぞれの担当の方から行事についての報告。役割分担がしっかりとできていました。

私からはつくし会からの報告を。国分寺市の事件で多摩立川保健所・国分寺市・都福祉保健局へ意見書を提出する予定なのでその内容について説明をしました。

そのあとは会員さんの近況報告へと移りました。語りつくせない思いがあふれて予定された時間はあっという間に過ぎてしまいました。

なごりを惜しんでの散会となりました。

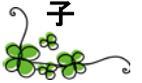




## 家族会訪問

「吉祥寺病院 やすらぎ会」

都連副会長 本田 道子



9月21日、土曜日午後からの家族会にはつくし会から安藤さんと二人での参加です。調布からバスです。ちょうどワールドカップラグビーが始まるとかで調布の駅前は大賑わいです。

病院ではすでに会場が準備され、作業療法士の方が家族会の担当として参加しておりました。

会長の司会で始まり紹介していただいたあと、最近のつくし会の活動についての報告をしました。福祉手当をはじめとする要望活動について、交通運賃について、国分寺事件で意見書を国分寺市をはじめ多摩立川保健所、東京都へも出して懇談会をもつこと、などの説明をしました。

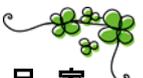
その後安藤さんが体験談を話されました。開会時は18名でしたが最終的には25名になりました。

休息のあとは質問コーナーとなり、安藤さんの話に出てくる「通電による治療」に興味を示された方からの質問や薬に関しての質問などもありました。私たちは専門家ではないので「おなじ家族」としてわが家の場合は、ということでの話ですが、安藤さんの話に共

感されていた方も多かったと思います。

「病院家族会」ということでのことも話したい方もおられました。つくし会では「病院家族会の交流会」を計画していることも話げできました。

私としては初めての「病院家族会」の訪問でしたが東京つくし会との相互理解が進んだように感じます。やすらぎ会のみなさまこれからもよろしくお願いいたします。



## 家族会訪問

足立区「あしなみ会」

都連理事 川崎 洋子



少々約束の時間より早めに北千住に降り立ち、約束の場所にと歩きだしたとき、なんと前をトコトコ歩いていたのは、一緒に訪問する轡田英夫さんでした。二人で北千住の町のにぎやかさに驚きました。駅の周りには商業ビルが背丈比べをするように立ち並んでいて、大勢の人でいっぱいでした。バスを二駅目で降りました。

会場にはすでに皆様が集まっておられました。あとから来られた方を含めて12名の参加でした。

轡田さんから、都連の活動、特に来年度に

向けた要望について説明がありました。福祉手当には関心が深く、足立区では一級のみ4000円支給を皆で議論し、何とか都条例の改正の必要性を確認しました。

そのあと、話し合いとなり、皆様の現状のお話がありました。どこに行っても課題は親亡きあとのことです。本人の状態や家族の事情は違いますが、それぞれ不安を抱えています。

兄弟姉妹関係、親、特に父親との関係が問題でした。家族が一つ屋根で一緒に暮らしていた時と違い、兄弟姉妹たちは家庭を築いて家を離れ、多くの家族は障害者と一緒の生活をしています。そんな中での苦労話が噴出しました。

入院中の本人を家で引き取れない、家族の高齢化や無理解をどう解決したらいいか、考えさせられることです。

いま求められているのが、訪問型の支援です。久しくいわれていたアウトリーチ事業が制度化されました。これから、各自自治体でどのようにするか協議されていきますが、従来の本人支援だけでなく家族丸ごと支援、家庭支援を求めます。24時間支援体制、多職種支援チームづくり、たらいまわししない、など、家族、本人の要望に寄り添う支援体制が作られるように、私たちは関心を持って制度の進捗を見守ることが必要です。

2019年度会費納入状況のお知らせ

21単会で41名の会費増！

賛助団体25団体 カンパも沢山！

皆様本当にありがとうございました！

都連副会長 植松 和光

ここ数年、評議員会やブロック会議等で東京つくし会の会費について議論をしてきましたが多くの単会の皆様から、各単会の実情もあり、一律的に会費を上げたり会員数を増やすのはなかなか難しいという意見が出されました。これに基づき当面、つくし会理事等会としては、各単会がそれぞれの財政状況等を勘案して、つくし会の財政の安定化に自主的に協力をしていただくということにしました。

今回、2019年度の会費の納入につきましては21家族会が41名（9月20日現在）分の会費を増やしてくれました。6月の評議員会では多くの皆様から3万4千円ものカンパをいただきました。また、賛助団体についても25団体の皆様が会費を納入していただいております。

ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

今後とも地域家族会、病院家族会の皆様、賛助会員の皆様を始めすべてのご家族の皆様にご協力、ご支援をお願い申し上げます。

講演会のお知らせ

- ☆11/2(土) 13:30~16:00 みんなでやろう家族SST  
講師：高森 信子氏 主催：サンクラブ多摩 ☎042-371-3380  
会場：二幸産業NSP健幸福祉プラザ5階視聴覚室 申込不要
- ☆11/9(土) オープン・ダイアログに学ぶ家族の対話  
講師：東京学芸大学准教授・教育心理学 福井里江氏、東京大学准教授・哲学 石原 孝二氏、訪問看護ステーションKAZOC ミツ井直子氏  
会場：新宿区立障害者福祉センター 主催：新宿フレンズ ☎03-3987-9788

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。

☆ 賛助会費	50000円
☆ (敬称略)	50000円
伊藤千尋	20000円
匿名	20000円
石川クリニック	50000円

ありがとうございます。



編集後記

東京つくし会では毎年東京都の予算編成の時期にあわせて要望活動を行っている。

今年も都議会での要望活動の最中の方に「ソーシャルファーム」について詳しい方がおいでなのでお会いしてみたら、とすすめて下さる先生がありました。

紹介していただいた炭谷先生にさっそくお会いしたのは9月3日のこと。

炭谷先生は精神障害についても、つくし会以前からの家族会についても、とてもよくご存じでした。以前から精神障害に心をよせてくださっていたのです。

とても心強く励まされました。一生懸命なら必ず見てくださる人はいる、と思いました。「ソーシャルファーム」についての条例化にあわせて私達もしっかりと学びと発信を続けてゆこうと思いを新たにしました。 都連副会長 本田 道子



つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。